

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく

国立第七小学校 平成26年2月27日 NO.92



オー君 「うわあー! きれいなお花だ。」

花ちゃん 「ホトケノザというのよ。」

オー君 「どこにさいているの。」

花ちゃん 「え! オー君知らないの。校舎 (こうしゃ) のウラや、わくわくドキドキ農園のはじっこ、それから、あちこちの畑などにいっぱいさいているわよ。」

オー君 「そうなんだ。おいら、まったくしらなかったな。」

花ちゃん 「とても小さなお花なのよ。それで、気がつかなかったのね。」

オー君 「小さなお花といえば、オオイヌノフグリも小さかったね。」

花ちゃん 「そうね。思い出して! いまの季節 (きせつ) は小さくかわいいお花がいっぱいのよ。」

オー君 「どんなお花があったっけ?」

花ちゃん 「ナズナでしょ、ハコベでしょ。それから、ヒメオドリコソウ。それから、タネツケバナもあったわね。」



ハコベ (ナデシコ科)

オー君 「いろいろあるんだ。それにしても、立っていたら、見えないものばかりだ。」

花ちゃん 「それで、お花を見る時には、ひざをついて観察（かんさつ）するのよ。」

オー君 「ひざをついて観察するということは、それだけお花が小さくて、地面（じめん）の近くに生えていたということだよな。」

花ちゃん 「そうね。それがどうかしたの。」

オー君 「そこで、おいらは考えたのさ。今ごろ花をさかせるような植物って、みんな背（せ）が低（ひく）いんだ。」

花ちゃん 「オー君。大発見ね。すごい事に気づいたね。」

モンタ博士 「その通りだね。すごいぞ。とってもよく気がついたね。」

オー君 「今ごろ花を咲かせる植物は、みんな背が低いんだ。おチビちゃんばかりなんだ。背（せ）が低ければ、風もあまりあたらないし、あったかいということなんだ。」

モンタ博士 「オー君は、本当によく観察できたね。よく考えたり、じーと見たりしていると、いろいろなことに気づくんだね。それがすばらしいことだね。」

花ちゃん 「オー君に拍手（はくしゅ）！パチパチパチ。ところで、地面の近くって、どのくらいあたたかいのかな・・・。」

To be continued